

とくしま社会運動資料センター・公開講座の記事が、朝日新聞にて掲載されました。

島 13版 ▲ 2018年(平成30年)9月9日(日) 享月 日 業庁 局

バス連携・値上げ盛る

四国鉄道懇 次回、中間報告まとめ

「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会」の第3回会合が高松市で開かれた。鉄道網を維持するため、バスとの連携や運賃の値上げなどを盛り込んだ中間報告案が示されたが、香川県の浜田恵造知事ら自治体側から「国はもつとJRの経営を支援すべきだ」などと修正を求める意見も出て、とりまごめは次回に持ち越された。

5日の懇談会には座長の正司健一・神戸大学大学院教授をはじめ、JR四国幹部や四国4県の知事らが出席。同社の半井真司社長は冒頭、7月の西日本豪雨の被害に言及。「防災対策が一層必要で負担がのしかかっている」と述べ、鉄道ネットワーク維持が難しいとの考えを改めて強調した。

提出された中間報告案では、四国の鉄道の利用客がピーク時の半分以下に減っていることや、全路線のうち76%が開通から80年以上

経ち設備の更新に多額の費用がかかるといった現状を紹介。鉄道路線維持には、鉄道を利用しやすい環境作りや財源確保の仕組み作りを取り組むよう求めた。具体的には、鉄道より低コストで運営できるバスな

どと連携し地域の特性に合う交通網を再編することや運賃の値上げ、駅舎や線路を自治体などが管理して鉄道会社が運行するという上下分離方式の導入検討を提言した。大都市圏がなく人口減少が進む四国での鉄道事業継続のため、国や自治体にも取り組むべきことを整理するよう要望した。

中間報告案について、浜田知事は「JR四国の財政基盤を安定化する仕組みを

整えるよう、国に働きかける具体的な提言をする必要がある」と、国に対しJR四国の経営支援策を示すことを求めた。正司座長は「中間報告は修正していく」と応じた。

会合後、半井社長は「中間報告に国の支援を盛り込めるかどうか、調整していく」と話し、年度内にも一度懇談会を開き、修正した報告案を提出する考えを示した。(添田樹紀)

生歌披露し子育て応援



童謡を歌う由紀さおりさん(左)と安田祥子さん=徳島市南末広町

徳島に由紀さおりさん・安田祥子さん

徳島市のイオンモール徳島で8日、子育て支援事業「イオン すくすくラボ」があり、歌手の由紀さおり

さんと安田祥子さんが「島で8日、子育て支援事業「イオン すくすくラボ」さい秋みつけた」などを披露した。

由紀さんは「子育ての大変な時期は30、40年も続かない。実のある時間にして乗り切って」。安田さんは「日本の歌には短い歌詞とメロディーに優しい思いが込められている。お家で歌って頂きたい」と話した。

徳島市の三村愛奈ちゃん(11カ月)の父誠土さん(33)は「生の歌声の大切さが身にしみたと話した。子育てアドバイザーセミナーでは、筑波大医学医療系の徳田克己教授が、善悪の区別が分かる子どもを育てるためには悪いことを叱る▽スマホを見せると親とのやりとりが減り言葉の学びが遅くなる」などと話した。(佐藤祐生)

障害者の作業所 記録映画で学ぶ

公開講座に60人

とくしま社会運動資料センターの公開講座が8日、徳島市の「ヒューマンわくびあ徳島」であり、市民ら約60人が、障害者たちが自ら考えて建てた共同作業所(愛知県知多市)のドキュメンタリーを鑑賞した。



記録映画監督の故・柳澤寿男さんが手がけた「そっちゃんない、こっちゃん コミ ユニティケアへの道」(1982年)。障害者とその保護者らが一体となって作業所を作り上げる2年間の記録だ。当時、指導員として携わった徳島市のNPO法人「太陽と緑の会」代表理事の杉浦良さん(64)は「学校に通えず、施設にも入れないメンバーたちが、制度が整っていないくても地域の中でたくましく生きていく姿を見てほしい」と語った。写真。参加者の一人は「労働とは生きることであり、楽しみ。障害者にとっても働くことは重要だと思った」と話した。(松尾俊二)

ながらスマホ 嘸のツボ

(松尾俊二)

「ながらスマホ」の嘸のツボ。昔言を呈するつもりはあまりないのですが、ちょっと気になったもので……。土曜日のお昼に入ったラーメン屋さんのこと。土曜日のお昼に入ったラーメン屋さんのこと。お母さんは小1くらいで、お母さんは30歳前後かな。ラーメン1杯と白ご飯を1杯注文し、娘さんの分を別の器に取り分けて食べ始めました。

で、お母さんが娘さんに「こぼさんように気を付けて、お行儀良く食べてね」と笑顔で言い、それに対して女の子も「うん」と元気なうなずきました。良い感じの様子です。私が気がなったのはその後です。お母さん、左手にスマートフォンを持ったまま、机に左ひじをつき、ずっ